

① : Q. なぜこの学び場を選んだのですか？

本人が小学校に1年間通ってみて「ここは自分には合わない」と感じ、それを我々親に伝えてきたのがきっかけ。森のようちえん通園時よりこの学び場のことは度々知る機会もあったので、本人がここへの通学を希望し、我々も子ども本人の特性がここの方針と合いそうだなと感じたから。

(10歳女 保護者)

本人が是非通いたいと希望したため。我が家の場合、親がスクールのスタッフだったため、本人が幼い頃からスクールに親しみがありませんでした。親としては一度小学校に行ってみたら？と何度も提案しましたが、サドベリーに行きたい！と本人に強い意志がありました。

(8歳男 保護者)

② : Q. 不安は無かったですか？

(最初は不安はなかったのですが) いざ入学を決め通い始めると周囲からの不安な反応をつい感じ取ってしまい、入学当初には不安を抱いたことは否めません。しかしこの学び場で過ごす時間を重ねるごとに本人の目の輝きが段違いに増し生き生きとし始めた事実で我々夫婦の目が覚め「子ども本人の”今”」を第一にする方針にしてからは、不安は徐々になくなってきました。子どもを大人がどんな物差しで見ると不安は現れたり消えたりするなと思います。

(10歳女 保護者)

入学に際しての不安はありませんでしたが、日々を過ごす中で当然様々な不安や悩み、迷いなどが親も子も出てきます。しかしその都度、親子、夫婦、仲間たちと対話をするなかで、私自身の価値観を見つめ直す機会も多く、親子共々学びや気づきが多い日々です。

(8歳男 保護者)

③ : Q. どんな場面で子どもの成長を感じましたか？

社会の出来事に対しての自分なりの意見、自分は外に對しこうありたいという発言などを耳にすると、「自分も社会の一員である」という受け身ではない自覚が芽生えてきたことを感じています。

また、我が子は公教育で言うところの「勉強」を一切拒否しているタイプですが、ゲー

ムや遊び、友達やスタッフとのやりとりなどで言葉や文字、算数的な考え方などが自然に身についてきており、「考える力や知的好奇心」はしっかりと成長してきているように感じます。

(10歳女 保護者)

日々色々な事を考えながら、悩んだり立ち止まったり挑戦したり失敗したりしている姿を垣間見る度に成長を感じます(例えば、全く出来なかったゲームを必死に習得したり、小屋やブランコ作りに挑戦したり、スクールの運営に背伸びして関わってみたり、やっぱり辞めると申し出たり、友達関係に悩んだり、休学してみたり)。またそういった試行錯誤を重ねる中でスクールの自分の居場所にして、少しずつ自信を付けていく様子は、キラキラと眩しく感じます。

(8歳男 保護者)

④ : この学び場に興味がある保護者へのメッセージ

サドベリースクールにおける「学び」という言葉を限定的に捉えてしまうと、不安を感じることもあるかもしれません。子どもが日々学び取っていることはカリキュラムや評価がある学校と違ってほとんど目には見えないからです。

例えば毎日じっとゲームに熱中している我が子を見ると私はどうしても不快感や不安を覚えてしまっていました。そういう時、自分の価値観を疑ってみる事が親にとっても学びになるなど感じています。未来を担うのは今の子どもたちであり、その未来では私の価値観は古くなってしまっている事があり得ると思うからです。そう思うようになったら、自分と違った価値観を持つ新世代の子どもとの日々の会話に発見や学びが沢山あり、子育てがより楽しくなりました。また、偏見を除いた視点で見ると、ゲームにもたくさんさんの学びが詰まっていました。

どのように過ごしているにしても長く時間を重ねるほどに確実に成長していることが感じ取れ「子どもの力を信頼して任せる」という言葉の確かさを理解できてきています。

(10歳女 保護者)

なかなかすぐには理解しにくく、また周りにも誤解されやすい場所だと思いますが、じっくり関わって行くととても学びや気づきが多く、親自身も子どもと共に人生を楽しむ場所だと思います。親子、夫婦、そして仲間たちとの会話が本当に豊かで面白いものになっていくのもこの場の魅力ではないかと思います。

(8歳男 保護者)